

令和6年度 学校評価報告書

学校番号 (小71) 長崎市立 (為石小) 学校

1 教育目標

ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~

2 学校経営方針

諸法令等に則り、日々の教育活動を省察・改善し、児童に確かな学力を身に付けさせることを通して、正しい生活及び学習の習慣と正しい人権意識や協働精神を身に付けた児童を育成する目標を、「学校・家庭・地域が共有・実践し、自他に誇れる校風を醸成する。

3 重点目標

- ・「確かな学力」の向上をめざす (学び合い・学び続ける学校)
- ・健やかな心と体を育成する (語り合い・響き合う学校)
- ・家庭・学校・地域の連携により教育の充実を図る (語り合い・響き合う学校) (整っている学校)
- ・安全・安心に学べる教育環境を整備する (整っている学校)

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	90	94	100	学校教育目標の達成に向けて児童・保護者・教職員がともに努めている。教職員の組織運営の工夫及び業務改善の効果が表れてきている。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	89	95	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	94	94	75	児童一人一人の基本的な生活習慣の定着に向けて保護者・教職員ともに努力していることが伺える。昨年度と比べると、「マナーやルールの定着」の教職員64→75、「挨拶の定着」の保護者81→91と10ポイント以上伸びている。保護者の意見として、「我が子は十分できていない」という自分事としての意見があった。
		挨拶をよくしている	94	91	67	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	87	95	75	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	93	94	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	93	89	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96	94	92	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	98	99	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	94	94	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	93	95	100	家庭学習の習慣化については、児童と教職員との間に意識の差が見られた。AIドリル活用をさらに推進し、主体的な学びを支えたい。「キャリア教育」は、外部講師を生かした学習活動を実施してきたが、十分達成しているとは言えなかった。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	94	95	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	93	84	64	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	79	85	100	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		96				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	98	93	100	全学年でメディアコントロール・チャレンジに取り組んだり4年生以上にはメディア講演会を受講させたりして、ICT機器やメディアとの上手な関わり方を学ばせている。今年度の日課に昼休みがないこととで外遊びの機会が減り、体力向上に結び付いていないと答える保護者が多かった。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	88	83	91	
		体力向上に努めている	87	71	92	
	食育	食に関する教育活動を行っている	97	96	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	98	86	100	地域のとともに児童を育成を図る学校づくりを目指しており、そのことが本調査の結果に反映している。ただし、保護者の「学校とPTA・地域との連携」は昨年度の90から78へ12ポイント下がっている。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	93	91	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	95	78	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	85	90	100	施設の老朽化や安全点検で不備が見つかった箇所については早急に届出て、修理改善できるよう組織的に対応している。学校サポーターの活躍により教職員の業務が軽減し職場環境が整っていると見えよう。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

全児童105名の保護者に対して、80名からの回答があり回答率は76.1%であった。その大半が肯定的な意見を占めていた。保護者の意見として、肯定的な意見が低い項目は「学校は児童の体力向上に努めている」71%、「学校はPTAや地域との連携がとれている」78%、「子どもは早寝早起き朝ごはんが身に付いている」83%だった。学校の取組や地域との連携とあわせて、各家庭での子育てについて振り返る機会になったのではないかと。

児童アンケートは全体的に肯定的割合が多かった。とくに、心の教育や信頼される学校の項目で高評価であった。児童が教職員を信頼して学校生活を送っていることが伺える。教職員の評価では、「ルールやマナー、挨拶の定着」や「家庭学習の習慣化」という基本的な生活及び学習に課題が昨年度に続き顕在化した。今後、全職員の共通理解のもと、これらの改善に取り組んでいかなければならない。

昨年度から各項目において高い評価ポイントが維持できているものが多い。保護者の意見として、学校経営や心の教育の充実を挙げる方が多かった。児童への働きかけが保護者に伝わっていることが伺える。教職員の意見では、学力向上をめざし、児童の指導や授業改善に取り組んできたことが結果として表れている。また、昨年度にも増して、教育環境や職場環境の充実を通して働き甲斐のある職場に近づいていることが感じられる。

6 学校関係者評価

- ・授業参観をした際、子どもたちがパソコンを上手に使いこなしているのに驚いた。日頃の先生方の指導の成果だと思う。
- ・地域行事への参加者が年々減ってきている。子ども会活動の衰退も見られる。三和・野母崎地区では、モルック競技を活用した地域活性を考えている。
- ・学校外(学童保育や地区内)で、子どもの言動から思いやりの欠如を感じる場面が見られ残念に思うことがある。
- ・学校便りを楽しみにしている地域の方が多く、行事予定を知りたいという意見もある。
- ・子どもたちが自分たちで考えて過ごす時間を少し確保してほしい。
- ・運動場の遊具の老朽化が見られる。子どもたちが安全に遊べるよう補修や取替が必要ではないか。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・保護者及び地域の方々への働きかけ(連絡と連携)を継続していく。
- ・「児童のルールやマナーを身に付ける」は校内での生活指導の充実や授業における学習規律の確立をもとに、規範意識を高めるための手立てを継続して講じていく必要がある。
- ・コロナ禍で中止になっていた地域行事などは、今後無理なく持続可能かどうかという視点で見直す作業が欠かせない。
- ・児童が活動しやすく、教職員が働きやすい日課をめざして変更を行う。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。
 <参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。